

# 小田原城 総構マップ

- 歴史と文化の香るまち散策コース
- 2時間10分**
- 距離7.5km
- ※城址公園の散策時間は除きます。
- 小田原駅西口・北條早雲公像 ①  
10分 ↓ 0.5km
  - 浄永寺 ②  
10分 ↓ 0.9km
  - 大久保神社 ③  
5分 ↓ 0.2km
  - 牧野信一文学碑 ④  
3分 ↓ 0.1km
  - 井上康文詩碑 ④  
5分 ↓ 0.3km
  - 小峯御鐘ノ台大堀切 ⑤  
2分 ↓ 0.1km
  - 蓮船寺 ⑤  
8分 ↓ 0.6km
  - 伝摩寺 ⑥  
10分 ↓ 0.5km
  - 居神社 ⑦  
3分 ↓ 0.2km
  - 大久寺 ⑧  
10分 ↓ 0.6km
  - 早川口遺構 ⑨  
20分 ↓ 1.0km
  - 西海子小路 ⑩  
静山荘 ⑪  
小田原文学館・白秋童謡館 ⑫  
15分 ↓ 0.8km
  - 徳常院 ⑬  
5分 ↓ 0.3km
  - 松原神社 ⑬  
3分 ↓ 0.2km
  - 大手門跡(鐘楼) ⑬  
5分 ↓ 0.3km
  - 小田原城址公園 ⑭  
馬出門 → 綱門 → 常盤木門・巨松 → 天守閣 → 御感の藤  
1分 ↓ 0.1km
  - 報徳二宮神社 ⑮  
5分 ↓ 0.2km
  - 幸田口門跡 ⑯  
7分 ↓ 0.4km
  - 北条氏政・氏照の墓所 ⑰  
3分 ↓ 0.2km
  - 小田原駅東口
- おだわら文学散歩コース  
～白秋童謡の散歩道を歩こう～
- 2時間20分**



**レンタサイクル**

利用料金	普通自転車	1日	300円
	電動アシスト付自転車	1日	1,000円
		4時間	500円

保証金 1,000円(返却時に全額返金)  
 利用時間 9:00~16:30(貸出は15:30まで)  
 貸出所 ①小田原城歴史見聞館 ☎0465-22-5795 ※普通自転車のみ  
 休業日:12/29~1/1、5/3  
 ②小田原駅東口駐車場 ☎070-5456-2288  
 休業日:12/31~1/1

**総構**

水堀	現存	埋没または消滅
空堀		
土塁		

※小田原城址公園内は省略

**凡例**

- 旧東海道
- 正規登城ルート
- 散策コース
- 小田原用水
- 街かど博物館
- 七福神

小田原市観光課 ☎0465-33-1521  
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/kanko/>  
 小田原市観光協会 ☎0465-22-5002  
<http://www.odawara-kankou.com/>  
 小田原駅観光案内所 ☎0465-22-2339



# 史跡・観光スポット

歴史と文化の香るまち散策コース



**北條早雲公像 ①**  
早雲は、戦国の世にあって親兄弟争うことなく五代百年にわたり関東を治めた北条氏の始祖であり、この像は平成2年(1990)、小田原市制 50 周年を記念して造られた。



**浄永寺 ②**  
弘安3年(1280)に開山された日蓮宗の寺院。寺宝の日蓮上人画像は「日蓮上人蛇身解脱画像」といわれ、県の重要文化財に指定されている。



**大久保神社 ③**  
北条氏の滅亡後、小田原城主となった大久保忠世と、江戸時代後期の城主忠貞を合祀している。忠貞は、幕府の老中職を務め、文学においても一級の人物で、和歌に多数の秀作が残されている。



**文学の小径 (こみち) ④**  
**牧野信一文学碑** **白秋**  
明治29年(1896)小田原生まれ。大正8年(1919)秋に発表した「爪」が鳥村藤村に認められた。代表作「凸面鏡」「父を売る子」「セーロン」など。



**井上康文詩碑** **白秋**  
明治30年(1897)小田原生まれ。若き日に東京で漢学を修め、その後中央詩壇で活躍。生まれ故郷の小田原を愛し、小田原の梅を深く愛した。



**福田正夫民衆碑** **白秋**  
明治26年(1893)小田原生まれ。詩誌「民衆」は福田正夫が主唱し、小田原を郷土とする若い詩人たちを同人として創刊された。



**小峯御鐘ノ台大堀切 (こみねのかねのたい おおほりきり) ⑤** **総構**  
戦国時代、小田原北条氏が築いた堀の中で、その形を今日まで伝えている貴重な遺構。幅最大 25m、高低差は約 12mに及び巨大な空堀跡を散策することができる。国指定史跡。



**北原白秋旧居跡 (傳聲寺) ⑥** **白秋** **板橋**  
白秋は、大正7年(1918)10月から約8年家族とともにここに住んでいた。大正8年(1919)5月、本堂の東側に建てた小さな家は、その姿から「木菟(みみづく)の家」と呼ばれ、傳聲寺はみみづく寺とも呼ばれている。



**居神社 ⑦** **板橋**  
戦国時代初期の名族三浦荒次郎義忠と木花咲耶姫命を祭神とする板橋と山角町の氏神様。境内には鎌倉時代末期の念仏供養碑の古碑群がある。



**大久寺 (だいきゅうじ) ⑧** **板橋**  
小田原城主大久保忠世が開基した大久保家の菩提寺。忠世は、文禄3年(1594)、小田原城中で死去し大久寺に葬られた。忠世の墓石は損傷も少なく立派なものであり、二代城主忠隣などの7基の墓石がある。



**早川口遺構 ⑨** **総構**  
小田原北条氏が秀吉との小田原合戦に備えて、城と城下町すべてを取り囲んで構築した小田原城総構の遺構。当時の面影を残す歴史公園となっている。国指定史跡。



**西海子小路 (さいかちこうじ) ⑩**  
明治以降は別荘地として知られ、多くの文学者がこの界隈に住んだ。道路の両側に約 50 本の桜が並び、春には桜のトンネルを楽しめる。江戸時代に武家屋敷が集まっていたことを偲ばせる小路。



**静山荘 ⑪**  
北原白秋の勤めにより大正8年(1919)に小田原に引越してきた合崎潤一郎がかつて居住していた地。この地で、佐藤春夫との間に文壇で俗に小田原事件と言われる「細君謀殺事件」を起こした。



**小田原文学館・白秋童謡館 ⑫** **白秋**  
本館には小田原ゆかりの文学者の資料、別館の白秋童謡館には北原白秋の資料をそれぞれ展示。庭園の一角には昭和を代表する小説家・尾崎一雄の書斎も移築。[開館時間 9:00~17:00 休館日 年末年始 入館料 大人 250円 小中学生 100円]



**大手門跡 (鐘楼) ⑬**  
大手門跡の石垣には、大正時代に移設された「時の鐘」があり、(現在の鐘は昭和28年(1953)製)、午前6時と午後6時に鐘を打ち、市民に時を知らせている。



**小田原城址公園 ⑭**  
天守閣が立つ本丸を中心とした城址公園には、小田原の歴史が学べる歴史見聞館や子ども遊園地などがある。梅、桜、ツツジ、藤、花菖蒲、あじさいの名所として知られ、市民や観光客の憩いの場になっている。



**天守閣**  
現在の天守閣は、昭和35年(1960)に市制20周年記念事業として、江戸時代の姿に復興された。平成27年(2015)から平成28年(2016)にかけて、耐震改修工事を含む大改修が行われ、展示もリニューアルし、新たな小田原城として生まれ変わった。[開館時間 9:00~17:00 休館日 年末年始ほか 入館料 大人 500円 小人 200円]



**城門 (常盤木門、銅門、馬出門)**  
本丸正面にある常盤木門は、昭和46年(1971)復興。門の傍らに立つ巨松(おおまつ)にちなんでその名がつけられたと伝えられている。二の丸の表門にあたる銅門は、本丸へと通じる大手筋に設けられた櫓形門。平成9年(1997)復元。



**銅門**  
二の丸正面に位置する馬出門は、馬出門と内冠木門(うちかぶきもん)の2つの門を配置した構造。平成21年(2009)復元。



**報徳二宮神社 ⑮**  
江戸時代後期の小田原城主大久保忠貞に登用され、数々の業績を残した二宮尊徳翁を祀った社で、明治27年(1894)、時の人々がゆかりの天守閣下の地を選んで建設した。



**幸田口門跡 ⑯**  
現在は道路や建物の下に埋もれているが、その東側に続く三の丸土塁は、小田原郵便局の裏側まで残っており、江戸時代の面影を今に伝えている。



**北条氏政・氏照の墓所 ⑰**  
天正18年(1590)に豊臣秀吉が北条氏を攻略した際、徳川家康と外戚関係にあった城主氏直は高野山に追放された。氏政(四代城主で氏直の父)と氏照(八王子城主)の兄弟は切腹させられ、この地にあった北条氏の氏寺、伝心庵に葬られた。



**北村透谷の墓 (高長寺) ⑱**  
近代文学の先駆者と呼ばれ、「厭世詩家(えんせいしか)と女性」は当時の若者の心をとらえた。この墓は透谷没後60年にあたる昭和29年(1954)、東京の瑞聖寺(すいしょうじ)から北村家の菩提寺である高長寺に移された。



**白秋童謡の散歩道 ⑲**  
小田原駅西口と白秋童謡館を結ぶおよそ4kmにわたる散歩道。散歩道の随所には案内板やパネルがあり、白秋童謡に思いを馳せながら歩くことができる。



**からたちの花の小径 ⑳**  
大正7年(1918)から大正15年(1926)までの約8年間を小田原で過ごした北原白秋は、市内を散策しながら多くの童謡を創作した。水之尾への小径を散策したことが契機で創作された「からたちの花」は白秋の代表作。

白秋童謡の散歩道を歩こう

小田原城総構

明治の佇まいを今に残す板橋界隈



**人車鉄道・軽便鉄道の小田原停車場跡 ㉑**  
多くの文人墨客(ぶんじんぼっかく)がこの駅から湯河原・熱海へと向かった。芥川龍之介はこの人車鉄道を題材に「トロッコ」を書いている。



**三好達治旧居跡 ㉒**  
昭和14年(1939)鎌倉から早川口に移り「春の岬」「岬(くさ)千里」など詩集や随筆を出版。早川決壊による水害で十字に転居し「一点鐘」を刊行。



**川崎長太郎小屋跡碑 ㉓**  
生家はこの地で箱根の温泉旅館相手に魚屋を営んでいた。文学を志し上京したが生活に行き詰まり昭和13年(1938)に小田原に帰った。実家裏の電気も水道も無い小屋で、ビール箱を机代わりにロウソクの灯りで名作「抹茶町」は書かれた。



**北原透谷生家跡 ㉔**  
近代文学の先駆者といわれる北原透谷は、明治元年(1968)、祖父が小田原藩の藩医という家に生まれた。島崎藤村らと日本のロマン主義の先駆けといわれる「文学界」を創刊。



**城下張出 (しろしたはりだし) ㉕**  
小田原城総構から張り出す形で平場が造られていた。総構から張り出させることにより「横矢掛り」の効果を生んでいた。



**稻荷森 (いなりもり) ㉖**  
道から少し北に入ると、総構への堀が谷津丘陵の地形に沿って巡らされている様子が幻想的に残っている。



**八幡山古郭東曲輪 ㉗**  
戦国時代の小田原城中心部で、城下を一望できる史跡公園として平成22年(2010)4月から開放。



**江戸口見附 ㉘**  
総構の最東端。江戸時代には、この前に門と番所が設けられ、ここから西が小田原城下と考えられていた。歩道橋が目印。



**蓮上院土塁 (れんじょういんどるい) ㉙**  
昭和20年(1945)の小田原空襲で投下された爆弾の1つが着弾し、土塁が大きく損壊した。戦国時代の史跡に昭和時代の戦争の傷跡が残る大変貴重な史跡といえる。国指定遺跡。



**玉伝寺 (ぎょくてんじ) ㉚**  
昔から道中薬・常備薬の「うしろう」で知られる外郎(うしろう)家の祖である宇野藤右衛門定治が開基した寺。寺内には外郎家代々の墓がある。



**皆春荘 ㉛**  
元首相・清浦奎吾が明治の末に建て、その後、山縣有朋が古稀庵の別荘として使用したという数寄屋風の建物。かつては庭越しに見える相模湾の風景が大変素晴らしいものだったと言われている。(非公開)



**山月 (旧共壽亭) ㉜**  
実業家・大倉喜八郎が、大正9年(1920)に建てた別荘で、関東大震災でも倒壊しなかった貴重な建物。各部屋の天井・欄間・建具類など造作の凝った造り。(現在は非公開)



**古稀庵 ㉝**  
明治の元勲・山縣有朋が明治40年(1907)、70歳のときに構えた別荘。現在は保険会社の研修所になっており、毎週日曜日は庭園が一般公開されている。[開園時間 10:00~16:00 入園料 100円]



**光円寺 ㉞**  
古くは実相寺という号で、寛永年間(1624~1643)に春日局が開基した。明暦年間(1655~1657)に現在の光円寺に改められたと言われる。国道沿いに大きな銀杏の木があり「見附の大イチョウ」として知られている。



**香林寺 ㉟**  
曹洞宗小田原三寺の一つにあげられる古刹で、北条氏綱夫人の開基と言われる。また、久野の総世寺とともに早川の宝珠山海蔵寺の末寺である。



**松永記念館・老樺荘 (ろうきょうそう) ㊱**  
日本の電力王と呼ばれ、実業界で活躍をした松永安左衛門が自宅の敷地内に建設したもの。老樺荘(国登録有形文化財)は、松永が晩年過ごしたところで、茶室等の意匠をこらした近代数寄屋建築。庭園は「日本の歴史公園100選」に選定されている。



**秋葉山量寛院 ㊲**  
慶長元年(1596)に、小田原城主大久保忠世が信仰していた遠州の秋葉山大権現を勧請したもの。毎年12月6日に火防祭があり、諸儀式の後、熾火(おきび)になった上を、素足のまま渡る火渡りが行われる。



**宗福院 (板橋地藏尊) ㊳**  
宗福院の地藏尊は「板橋のお地藏さん」として親しまれている。新仏の供養に3年間続けて参詣するという風習があり、毎年1月と8月の23・24日の縁日には、大勢の参拝者で賑わう。



**小田原水取入口 ㊴**  
小田原用水は、箱根芦ノ湖を源とする早川の水をこの地で取り入れ、旧東海道線に沿って城下内へ流した上水道。後北条時代に造られたもので、徳川家康が江戸城築城の際に手本とした。形態は変わったが、現在でも用水の取入口が残っている。



**城山公園 ㊵**  
春に咲く約350本のソメイヨシノのほか、四季折々の植物が楽しめる閑静な公園。晴れた日には小田原市街や相模湾が望める。



**小田原漁港 ㊶**  
東地域域の拠点漁港で、アジやイワシなどの様々な種類の魚が水揚げされる。漁港内には魚市場や食堂があり、旬の魚介類を楽しみことができる。防波堤には、小田原ちようちんを模した灯台があり、訪れる人に親しまれている。



**清閑亭 ㊷**  
黒田長成(元貴族院副議長)の別荘として、明治末期から大正初期に建てられた。雁行(がんこう)状平面で数寄屋風の丁寧な造りが特徴。材質及び技法に優れている純和風建築で、歴史的文化的価値が認められ、平成17年(2005)、国の登録有形文化財に登録。



**北条稻荷 ㊸**  
今から400年前、北条氏康が勧請したものといわれている。北条氏康と城内の老狐との伝説があり、その狐を初めは城内で祀り後、当地に移したので北条稻荷の神名がつけられたといわれている。また社前の蛙石は氏康が寄進したもので、小田原に異変があるときは鳴いて必ず変を告げたといわれている。



**街かど博物館 街博**  
かまぼこ、漬物、菓子、ひもの、塩辛、そして木工など、古くから小田原の産業を支えてきた地場産業に関わるひと・製品・ものづくりの結びつきを知ることができる。(市内20箇所)。写真のなりわい交流館は無料のお休み処で、お茶の提供もあり、くつろぐことができる。



**小田原七福神 ㊹**  
小田原城を中心に、西に寿老人・大黒尊天、南に福禄寿・布袋尊・恵比寿神、北に弁財天、毘沙門天の各寺院が配される。元旦から、一年の開運と諸願成就の祈願成就の祈願行事が行われる。

立寄りスポット

耳より観光情報

おだわら文学散歩コース